

旧弯管渠跡碑

(きゅうわんかんきょあとひ)



【所在】

鷹栖町 15 線 17 号
(近文共栄溝路)

【指定年度】

昭和 6 3 年

【標柱建立】

平成元年

先人の努力が生んだ灌漑溝

今から 70 余年前、近文第二土功組合（現在の大雪土地改良区）は近文土地改良区に遅れること 10 年、大正 4 年に土功組合設立の認可を受け、1,600 町歩の開田のため、石狩川から取水し、幹線支線合わせて約 90 km の用水路工事に着手したのは大正 6 年のことであった。その幹線の一部に 5 か所、総延長約 1 km のサイフォン工事があった。その最大のものは第 1 号湾管で長さ 337 間（約 600m）、内径 5 尺（約 150 cm）、水頭約 14m という規模であった。工事着手から 3 年を経た大正 9 年の春、コンクリート製サイフォンが完成、通水したところ 3 か所も亀裂を生じ、噴水がはなはだしく、応急処置は 100 回も行ったという記録がある。この復旧のため、その年の秋、鉄筋コンクリート管を取り壊し、再び木管に取り替えることになり、工事費は更に増加し、大正 10 年 5 月に着工、大正 10 年 11 月に竣工している。この湾管は昭和 23 年まで 25 年間通水され、その後、ヒューム管となり約 40 年を経て、昭和 61 年から国営事業として鉄製で直径 2 m のサイフォンを使用し改修した。

幾度も困難に遭いながら用水路工事に情熱を注いだ往時の人々の汗と涙こそ、鷹栖村開拓の歴史そのものであり、壮大なロマンの一コマを語り伝えることは私たちの誇りでもある。